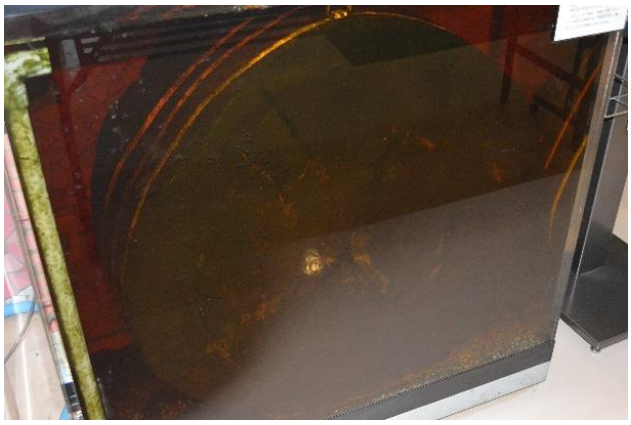
９万年前の真実～八藤遺跡の巨木～

三養基支部　中原小学校　江頭　政志

１．９万年前

上峰町ふるさと学館に９万年前の巨木の一部が保存されています。

上峯町ふるさと学館



保存されている巨木

樹齢３９４年の巨木の幹で、この年輪には火砕流発生直前の約４００年間の気候変化が記録されている。

また、この円盤は、年輪の成長パターンから年代を決定する『年輪年代学』の資料としては世界最古のものです。

９万年前の秋から冬にかけてのある日[注1]、阿蘇山が大噴火を起こしました。阿蘇山から約８０ｋｍ離れた上峯の地には、数十分後に第一波の爆風が襲来し、その直後、現在の筑後川沿いに東から約４００℃という高温の火砕流が襲いました。直径 1.5mの大木を根こそぎ倒してしまうようなものすごい勢いだったと思われます。この八藤丘陵の阿蘇４火砕流堆積物及び埋没林は国指定天然記念物になっています。

注１：樹木の最終年輪を観察することで枯れた季節がわかります。

発掘時の様子（　文化庁　国指定文化等データベース）

大噴火に伴い大量の火山灰が放出されました。太陽光は遮られ、昼間でも薄暗く、火砕流によって覆いつくされた北部九州は森林が失われ、『阿蘇４砂漠』と表現されるような風景になりました。

樹木を失った背振山地は大雨のたびに土石流が発生し、現在の佐賀平野東部の丘陵地帯を形成していきました。

２．理科の学習の中でどう活用する？

（１）単元　第６学年『土地のつくりと変化』

（２）活用方法

地層のでき方として、流れる水の働き、火山の働きの２つを学習します。火山活動による土地の変化を調べながら、私たちの生活への影響について学習をします。また、防災についても触れながら学習を進めていきます。壮大な自然のエネルギーを実感する実物として巨木の実物を活用してもらいたいと思います。また、水中に保存するなどいろいろな工夫をしてります。専門の方が常駐してありますので、ご活用ください。

３．参考資料

・９万年前の真実～人は知らない九州の熱い時～

平成２４年３月（改定）　上峯町教育委員会　　問い合わせ先　上峯町ふるさと学館

Tel 0952-52-4937

・文化庁　国指定文化等データベース